

写真文化首都「写真の町」

しがしかわ

おいしい水と、うまい空気で、人とお米が育つまち

- ▶ 東川町の27年度予算は68億9千万円あまり
- ▶ 第31回写真の町東川賞決定



5

2015 May
No.739

CONTENTS

東川町の27年度予算は68億9千万円あまり — 3

- 行政執行方針
- 教育行政執行方針

第31回写真の町東川賞決定 — 12

まち・タウン — 18

- 新学期、新しいお友だちとうれしい笑顔
- 東川日本語学校、10月開校へ
- 10年目の君の椅子、鴻恭ちゃんにプレゼント
- 東アジアと交流深める新たな取り組みへ ほか

町長コラム「飲水思源(いんすいしげん)」 — 22

-
- ◇貸し出し図書・ビデオ紹介

大雪山の素顔 — 23

- Nature Column
- 登山道の整備で考えること ガイドオフィス風 代表 鳥羽晃一さん
- 世界を知ろう! No.1
- 桜の木はラトビアにありますか? 国際交流員 クリスタ・ボグダノヴァさん

A Word From Another World — 24

- No.44 日本の郵便が大好き 英語活動教育指導員 テイラー・バーネットさん
- エイゴノマナビカタ
- マジック・スクール・バス 英語教育指導員 宮地晶子さん

人生を拓(ひら)く — 25

- 第12回 23区 川瀬初枝さん
- ◇俳句

人事異動 — 26

北海道知事選挙、北海道議会議員選挙の投開票結果 — 27

大雪地区広域連合からのお知らせ — 28

- 大雪地区広域連合の27年度予算概要
- 後期高齢者医療制度のお知らせ

くらし・ネットワーク — 30

- 大型ごみ収集の申し込み方法が変わりました
- ひがしかわビューポイント、東町1丁目道路の名称公募
- 「小西健二奨学金」の奨学生を募集
- 「無料低額診療」利用者の調剤薬費用を助成
- 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金 ほか

子育てチャンネル — 38

- ゆかいな「愉介(ゆかい)」との愉(たの)しい毎日 堤 妙さん
- この一年を振り返って 森 恵理さん

ミニ家庭医学講座 — 39

- 第18回 ストレスは「ぎっくり腰」の新たな引き金 町立診療所副所長 古川倫也さん

インフォメーション — 40

- 5月の行事 ほか

「今、生き生きと」は休載します。



5

2015 May
No.739



しんせんでん
豊作願って神饌田御田植え祭
(昨年5月8日、東2号北1の三田さん方で)

春の全国交通安全運動
5/11(月)~20日(水)
危険! 自転車飛び出し要注意

飲酒が招く心の弛み
「大丈夫~♪」が死亡事故

いのちを守る
シートベルトとチャイルドシート
東川町、東川町交通安全協会、東川・東川西・志比内警察官駐在所

写真文化首都の事業推進「写真文化首都創生課」新設

東川町の27年度予算は68億9千万円あまり

東川町の27年度一般会計当初予算は、町長選挙のため骨格予算として59億2200万円(前年当初比6億8千900万円、10・44%減)でしたが、4月補正で政策予算4億2千715万5千円を追加し、特別会計を合わせた総額68億9千115万5千円(前年度当初比2億2千464万5千円、3・16%減)の現計予算を策定しました。

4月9日開かれた27年東川町議会第2回臨時会で、松岡市郎町長の行政執行方針、林万里教育長の教育行政執行方針説明と、27年度町一般会計補正予算案、東川町課設置条例の一部改正案、合田博、長原淳両副町長の任期満了に伴う再任議案など3件、専決処分報告1件を審議し、いずれも全会一致で可決成立しました。

写真文化首都の事業推進に向けて町課設置条例改正を行い、5月から「写真文化首都創生課」を新設。地域活性化課は国際交流促進を担う「交流促進課」として改編しました。都市建設課の一部門だった公共施設管理室は、公共施設サービスの充実に向けて「公

共施設サービス課」として独立しました。(別添A3判役場機構の改編図、26頁人事異動を参照)

平成27年度行政執行方針



平成27年度行政を執行するに当たり基本的な考え方を申し上げ、議会並びに住民の皆さまのご理解をお願い申し上げます。

第1 はじめに

昨年は明治27(1894)年に本町の開拓測量が始まり、翌年の明治28(1895)年に四国や本州からの団体入植が始まって以来120年、人に例えると大還暦という意義ある年を迎えることができました。この節目となる年に、先人が残された有形無形の大切な文化を「写し、残し、伝える」ことを大きな柱として、未来に向かってさらなる発展の決意として「写真文化首都」宣言を行うことができました。また目標としておりました定住人口8千人も42年ぶりに達成できましたことは、議会を始め住民の愛郷精神によるところが大きく、深く感謝申し上げます。

上げます。

先人は町の柱となる産業を農業、木工・クラフト製造業、そして観光サービス業に求め、「お米と工芸、観光の町」と表現し、素晴らしい産業文化とともに発展を持続してきており、先人の尽力と行動力に心から敬意を表します。

私たちは過去の歴史に学び、地域の豊かな文化的、自然的な資産の更なる発掘に努め、地域資産を最大限生かした活力ある町づくりを推進することが重要であると考え、未来へ向かって輝く町づくりを確実に進めます。

第2 文化資産等を地域創生へ生かす「新たな第一歩、写真文化首都づくり」

地方創生が大きな課題となつていますが、本町においては今までも人口減少の歯止めを止め、町の活性化に取り組みんできております。今後とも定住人口と交流人口の総和の拡大に取り組み、文化を生かした新たな町づくりへ向かって目標を定め第一歩を踏み出します。



30年目の節目迎えた写真の町東川賞の受賞者作品展テープカット(昨年8月9日、文化ギャラリー)

1. 目標
ア. 定住人口8千人以上の持続を目指します。

イ. 写真文化首都の証として、次の文化の資料収集保存化(アーカイブス)に努め、その魅力を伝え国内外からの誘客拡充、交流人口の拡大を図ります。(1)写真文化 (2)家具クラフト文化 (3)大雪山文化

(1) 写真文化
1985(昭和60)年、先人は未来に向かって写真の町を宣言しました。写真文化も近代的な技術の進展に伴い大

行政執行の具体的な施策

27年度は次の主要施策を展開していきます。(ゴシック体は新規事業)

1. 人と文化を育むまちづくり

- (1) 学力向上対策の推進と確かな学力育成支援交付金の活用
- (2) 中学校30人学級の導入
- (3) フィンランド教育視察の実施
- (4) 保健師等専門的職員の配置による幼児センター機能の充実
- (5) 特別支援教育支援員等の充実(幼児センター、東小、第一、第二、第三、東中)
- (6) 日常的な読書活動の推進と学校図書館司書の継続配置
- (7) 学習支援員、理科観察実験アシスタントの充実
- (8) 学童保育の推進と充実
 - ・自然体験、野外学習事業
 - ・学習支援の充実
 - ・子ども教室との連携
- (9) 第一、第二、第三小木製机、椅子の製作
- (10) 学習用椅子贈呈事業(中学校卒業生)
- (11) 第二小1階トイレプールの改修
- (12) 小学校におけるフ化物洗口の実施
- (13) 小西健二奨学金制度による支援
- (14) 北海道東川高等学校の特色ある学校づくりへの支援
- (15) 子育て支援ネットワークづくりなど地域子育て支援事業の充実
- (16) 英語教育の充実(英語キャンプ等の充実)
- (17) 心の教室相談員の継続配置
- (18) 栄養教諭の配置と食育の推進
- (19) 英和辞書等贈呈事業(小学校卒業生)
- (20) 地域交流センターとその周辺施設の運用開始
- (21) 学社連携推進事業の本格運用と土曜教育の推進
- (22) 学校支援地域本部事業の拡充
- (23) 学校、家庭、地域の連携協力推進事業(地域未来塾)の実施
- (24) 家庭教育支援の充実
- (25) 親子の朗読会の開催
- (26) 通学合宿(第一小学校)の実施
- (27) スクールバス運行管理事業【地方創生】
- (28) 通学児童交通費支援事業
- (29) 通学バス運行支援事業
- (30) 「早寝、早起き、朝ごはん」運動の全町的な取り組み
- (31) 放課後子ども教室の推進
- (32) ブックスタート事業
- (33) マイブックマイトーク事業(小学新一年生に本の贈呈)
- (34) FAこころのプロジェクト「夢教室」の開催
- (35) 保育、幼児教育環境の充実
 - ・幼児センター改修事業(食器洗浄機の更新、室内遊具の設置)
 - ・プレスクール事業
 - ・幼児センター保育者研修事業
 - ・子育て支援人材育成事業
- (36) 幼児、児童、生徒の生活リズムの改善
- (37) 君の椅子事業の継続推進【地方創生一線り越し】
- (38) スポーツ国際交流員(SEA)を活用したスポーツ活動の推進
- (39) ちびっこスポーツクラブの実施
- (40) 合宿の里づくり推進事業
 - ・東川町合宿の里推進協議会への支援
 - ・大学等スポーツ、ゼミ合宿の受け入れ事業
 - ・大学等インターンシップ受け入れ事業
- (41) 生涯学習振興奨励事業の推進
- (42) はつらつスポーツ振興奨励事業の推進
- (43) 次世代まちづくり連携事業(異業種交流事業、パートナー支援事業、地域少子化対策強化事業)【地方創生一線り越し】
- (44) 町立日本語学校の設立運営
- (45) 国際理解教育の推進と充実(小、中、高校)
- (46) 北工学園旭川福祉専門学校日本語学科留学生等に対する支援
- (47) 国際交流事業等の推進
 - ①ラトビア・ルーイエナ姉妹都市交流事業(高校生交換交

- 流等)
- (2)カナダ・キャンモア姉妹都市交流事業(高校生派遣、サッカー少年団招へいほか)
- (3)韓国チャンス郡、ヨンウォル郡交流事業(高校生受け入れ、サッカー少年団招へいほか)
- (4)台湾青少年等交流事業(高校生派遣等)
- (5)東アジアを中心とした外国人(韓国、台湾、中国など)を対象とした日本語、日本文化留学生受け入れ事業の実施
- (6)東アジア地域交流促進事業への支援協力(東アジア地域交流促進協議会実施事業)
 - ・東アジアを中心とした地域からの観光客や留学生等受入PR事業(韓国、中国、台湾、タイ等)
- (48) 国際交流会館Wi-Fiネットワーク増設

2. 人にやさしく健康をささえるまちづくり

- (1) 町立診療所の特定健診無料化と各種予防接種の実施(インフルエンザ、ヒブ、小児用肺炎球菌、子宮頸(けい)がん、高齢者肺炎球菌)
- (2) 保健、福祉、医療の連携強化
- (3) がん検診の実施
 - ・国保加入者の検診料助成事業の実施
 - ・がん検診推進事業の実施
 - ・町立診療所でピロリ菌検査助成事業の実施
- (4) 町立診療所の外来患者無料送迎の実施
- (5) 院外薬局との連携強化
- (6) 疾病予防対策及び健康教育事業の充実
- (7) 森林ウォーキングプロジェクト等事業の実施
- (8) 子ども発達支援センターの共同運営
- (9) 子ども医療費助成事業(小、中学生の外来医療費)
- (10) 各種福祉サービスの申請手続の簡素化
 - ・福祉医療更新手続き(重度、ひとり親)
- (11) 障害者総合支援法に基づく介護給付、訓練等給付事業の推進
- (12) ふれあいの郷連携支援
- (13) 放課後児童デイサービス事業所への支援
- (14) 総合相談事業
- (15) 共生サロン事業
- (16) 基幹相談支援センター等機能強化事業の実施
- (17) 不妊治療費助成事業の実施【地方創生一線り越し】
- (18) 多子世帯支援事業【地方創生一線り越し】
- (19) 生活支援費助成事業【地方創生一線り越し】
- (20) 妊婦一般健康診査の実施
- (21) 高齢者生きがいづくり事業
- (22) 高齢者ハイヤー料金助成事業の拡大(町内外利用)【地方創生】
- (23) 高齢者緊急通報装置設置事業
- (24) 乗り合いタクシー支援事業
- (25) 介護予防事業、包括的支援事業
 - ・各自治振興会及び各シニアクラブ単位の介護予防事業等生きがい対策事業
- (26) 在宅福祉事業
 - ・生活支援ヘルパー派遣事業
 - ・除雪サービス利用助成事業
 - ・配食サービス事業
 - ・外出支援事業
 - ・移送サービス事業
 - ・あんしん電話設置事業
- (27) 間口除雪サービスの実施
- (28) いきいきセンター内部改修事業
- (29) 福祉給付金事業
 - ・ひとり親家庭で高校生のいる世帯に支給
- (30) 地域福祉推進本部事業の推進(共助の基盤づくり事業の推進)
 - ・高齢者宅等救急医療情報シート配付事業
 - ・要援護者みまもり事業等



町民8千人目おめでとう(昨年11月6日、役場町民ロビーで)

第1 消費循環型経済の推進
今年も引き続き、ひがしかわ株主や出会った方々とのご縁(エン)を大切に、お互いに応援(エン)しながら、まるく円(エン)が回る経済対策を共益の視点で実施し、経済の活性化を目指します。

第5 高齢者が安心して楽しく暮らせるまちづくり
高齢な単身者や夫婦世帯が増加していますが、「終の棲家(ついのすみか)」として東川町で暮らすことができるように安心・安全対策の充実に努めます。

第7 健全な財政を維持するまちづくり
時代の推移と解決すべき課題の対応に向け、核となる役割組織機構について常に見直しながら時代に順応できるように努めます。

第8 終わりに
地方自治の原点は自律し、「住民の繁栄、住民の安全・安心、住民の幸福」の向上にあります。「最少の経費で最大の効果」が発揮できるように引き続き全力で取り組んでいきますので、深いご理解とご支援をお願いします。ありがとうございます。
なお具体的な施策は、別表のとおりです。
平成27年4月9日
東川町長 松岡市郎

(2) 家具クラフト文化
本町では木工家具製造工場や工房があり、家具づくりやクラフト職人などが頑張っています。「匠」の技やデザイン力のある作品や資料の保存展示に努め、製造品の新規需要拡大を目指します。

(3) 大雪山文化
本町にある住民の誇りである北海道最高峰・旭岳は、人々の暮らし、産業などを支え、大切な山として存在しています。その歴史文化資料の保存と情報発信に努め、国内外から大雪山を訪問する人々の拡大を目指します。

第3 循環型経済のまちづくり
少子高齢化社会の到来により地方の人口と消費が減退することが懸念されていますが、安定的な消費の純増を図り、新たなサービス提供により産業の均衡ある発展に努めます。

第4 子育て支援と子どもから高齢者までの元気に生涯学習のまちづくり
教育委員会と連携して女性の社会参加と子育てを応援し、子どもから高齢者まで自ら学び個性を生かすことができる教育の支援も行います。次代を担う子供たちが郷土愛を育み、農業をはじめ地域の産業に誇りを持つことができる教育、グローバル化の時代に対応できる逞しい教育の展開に努めます。

第6 自主的な地域コミュニティ活動を支援と協働するまちづくり
人口が減少する時代にあつて、地域と行政のパートナー関係の充実が一層重要であります。地域自治区域内の実情を把握し、相互に情報の共有化を図り、住民福祉の向上と地域振興の推進に努めます。

第8 終わりに
地方自治の原点は自律し、「住民の繁栄、住民の安全・安心、住民の幸福」の向上にあります。「最少の経費で最大の効果」が発揮できるように引き続き全力で取り組んでいきますので、深いご理解とご支援をお願いします。ありがとうございます。
なお具体的な施策は、別表のとおりです。
平成27年4月9日
東川町長 松岡市郎



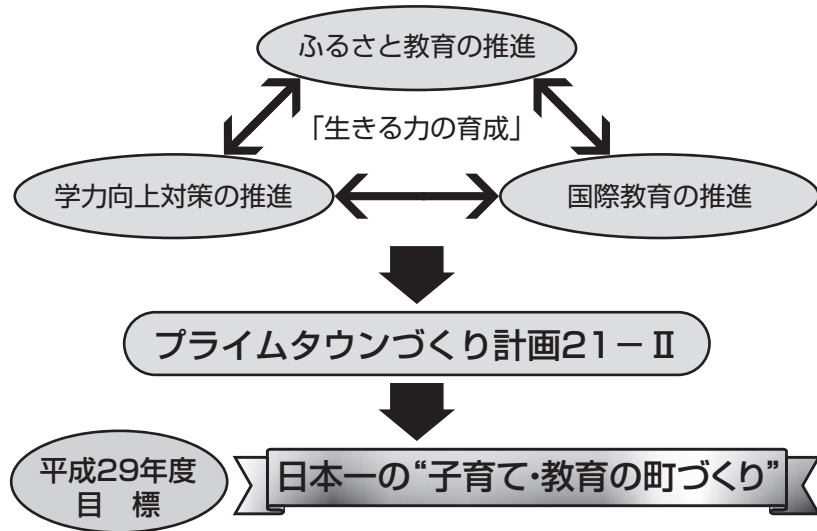
どんとこい祭り(昨年8月9日、東町1丁目道路)

平成25年度～平成29年度までの5カ年間

教育行政執行方針の期間

【基本方針】 「すべての子どもから大人までが、質の高い教育を受けられる生涯学習社会の実現」

【重点施策】 ① ふるさと教育の推進 ② 学力向上対策の推進 ③ 国際教育の推進



教育行政の体系

平成26年度東川町教育行政執行方針

平成27年第1回臨時会の開催にあたり東川町教育行政執行方針と主要な施策を申し上げます

はじめに

このようなことを受けて、すべての町民が子どもや若者を支えることにより、一人ひとりの能力と可能性を最大限伸ばし、それぞれの夢や目標にチャレンジできる希望に満ちた社会の実現を目指す

現在、人口減少や少子高齢化に加え、グローバル化の進展など、社会が急激に変化しております。本町においては、子どもたちの学力や体力、心の教育や生活習慣の問題などさまざまな課題への対応が求められています。さらに町が持続的に発展していくためには、「未来への先行投資」である教育の充実を図り、地域の将来を担う人材の育成が最も重要であります。



基本方針

東川町では、健康で知性と個性を備え、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人材の育成をめざしてまいります。そのため、平

要があります。このため、昨年完成した東川小学校に併設された地域交流センターを核施設として、東川町学社連携推進協議会が中心となり、周辺の社会教育施設を最大限に活用し、子どもから大人までが主体的に参加できる学社連携の様々な体験プログラムを実施していきます。

重点施策

1. ふるさと教育の推進 児童生徒が郷土の自然や人間、社会、産業等と触れ合う機会を充実させ、そこで得た感動体験を重視することによって、「ふるさと」の良さを



- ・災害時要援護者支援体制の整備
- ・買い物弱者支援事業
- ・権利擁護事業の推進
- ・生活困窮者対策の推進
- (31) 無料定額診療事業処方支援事業の実施
- (32) 合併処理浄化槽設置事業
- (33) ごみ減量化及び資源化事業の推進
- (34) 地下水調査事業
- (35) 飲料水供給施設整備事業
 - ・第32、第33行政区飲料水供給施設整備事業
 - ・第29行政区飲料水供給施設整備事業
 - ・第34行政区飲料水供給施設整備事業
- (36) おいしい水確保支援事業
- (37) 防火水槽整備事業

3. 人と自然が共生するまちづくり

- (1) 市街地地区地籍調査事業
- (2) 社会資本総合交付金事業
 - 【活力創出基盤整備事業】
 - ・西3号道路改良事業
 - ・西5号道路改良事業
 - ・西10号道路改良事業（補正対応予定）
 - ・橋梁長寿命化修繕事業
 - ・第2期西5号道路改良事業
 - 【下水道事業】
 - ・西部処理区管きよ新設事業（南町1丁目）
 - ・西部処理区管きよ新設事業（北町4丁目）
 - 【市街地整備事業】
 - ・沿道植栽事業
 - 【都市再生整備計画事業】
 - ・1丁目道路整備事業
 - ・南3条南中道路整備事業
 - ・南町1丁目雨水排水調整施設整備事業
 - 【地域住宅支援事業】
 - ・南町1丁目団地整備事業
 - ・南町1丁目団地1号棟整備事業（補正対応予定）
 - ・公営住宅等ストック総合改善事業（補正対応予定）（北団地A1共用部改善工事）
 - ・民間住宅策推進事業
 - （北方型二世帯住宅建築支援事業/景観住宅建築支援事業/住宅太陽光発電システム設置補助事業/既存住宅耐震改修補助事業/薪ストーブ設置補助事業）
 - ・民間大規模建築物耐震診断補助事業
 - ・町内移住希望者支援事業【地方創生一線り越し】
- (3) 道路新設改良事業
 - ・上岐登牛道路改良事業
 - ・中の沢道路改良事業
 - ・阿波団体道路改良事業
 - ・東3号道路改良事業
- (4) 公園整備事業
 - ・特定地区公園整備事業
 - ・大雪旭岳源水公園施設整備工事
 - ・さくら公園植栽工事
- (5) 除雪車購入事業(7トン級ダンプ車)
- (6) 美しい風景づくり推進事業
 - ・美しい風景づくり賞の実施 ほか

4. 経済基盤の確かなまちづくり

- (1) 地域おこし協力隊の充実
- (2) 国営緊急農地再編整備事業の地区調査の実施
- (3) 恵みの田園づくり支援事業の充実
 - ・担い手対策事業、生産対策事業、販売対策事業、農政対策事業
- (4) 雇用創出農業生産性向上事業（ひがしかわサラダ産地拡大推進）【地方創生一線り越し】
- (5) 交流体験施設、体験農園（第三地区）の有効活用の推進
- (6) 地域マーケット事業の推進
- (7) 中山間地域等直接支払い事業の推進
- (8) 多面的機能支払い事業の推進
- (9) 青年就農給付金事業の推進
- (10) 森林整備地域活動支援対策事業の推進（施業の集約化、路

5. 参加と対話で築くまちづくり

- (1) 東川町総合自治基本条例（仮称）の検討、策定
- (2) 自立する町の地域組織の再編や地域づくりの継続検討
- (3) 地域自治振興会活動の支援及び地域活動推進員の継続配置と統括推進委員の配置
- (4) 補助金交付団体の自立化の推進
- (5) 地域自治振興会と行政区のあり方の検討
- (6) 第二地区コミュニティセンター改修事業
- (7) 地域情報通信基盤事業（光ファイバー網等）
- (8) 「全国市町村国際文化研修所」との人事交流の実施
- (9) 職員海外派遣研修事業（カナダ、韓国、中国）
- (10) 上川広域滞納整理機構との連携
- (11) 国際交流員（CIR）の配置（ラトビア、韓国、中国、タイ）
- (12) 上川中部定住自立圏への参画
- (13) 「写真の町」ひがしかわ株主事業
- (14) 自主防災組織の設立に対する支援
- (15) 表彰事業の実施
- (16) 町史編さん事業の実施

- (11) 未来につなぐ森づくり推進事業の推進（植栽事業の推進）
- (12) 森林整備対策事業の推進（下刈り、除間伐事業の推進）
 - ・豊かな森づくり推進事業
- (13) 生産林道開設事業の推進
 - ・神谷橋線生産林道開設事業
- (14) 町有林造成事業の推進
 - ・森林環境保全整備事業（下刈り、間伐）
 - ・東倉沼町有林株主植栽事業（植栽）
 - ・開拓100年記念の森公園他整備事業（下刈り）
- (15) 林道整備事業の推進
 - ・林業専用道・中の沢線開設事業
- (16) 旭岳地区飲用水水源調査事業
- (17) 企業等に対する支援事業（企業誘致、起業化支援、中小企業育成）【地方創生一線り越し】
- (18) 地域消費喚起、生活支援型事業（プレミアム商品券発行）【地方創生一線り越し】
- (19) 国際家具デザイン推進支援事業の実施（織田コレクション展示等）
- (20) 中小企業育成事業（融資保証料利子の補給）
- (21) 東川町文化芸術交流センター整備事業
- (22) エコツーリズムの推進
- (23) 国際観光誘致事業の推進
- (24) 国際情報発信事業（海外メディア活用、インバウンド推進事業）
- (25) スノーボード国際大会開催事業
- (26) 観光、物産キャンペーン事業の推進
- (27) 天人峡地区引湯施設整備事業
- (28) キトウシ家族旅行村施設整備事業
 - ・圧雪車格納庫新設
 - ・レストランルバータ改修
- (29) キャンモアスキーリフト修繕事業（補正対応予定）
- (30) 写真の町を通じたフィルムコミッションの推進
- (31) 写真の町東川賞の授賞と東川賞の充実
- (32) 写真の町、管理、活用の推進
 - ・E Uジャパンフェスト日本委員会等からの寄贈作品の収蔵、整理
 - ・東川賞ほか収蔵作品のデータベース更新
- (33) 「写真の町」事業の推進
 - ・遊休施設の有効活用
 - ・海外作家招へい事業
 - ・ラトビア国際写真サマースクール派遣事業
- (34) 「写真甲子園」事業の推進
 - ・広報宣伝活動の強化
 - ・主催市町との連携強化
- (35) 交流人口拡大の積極的な推進
 - ・撮影ツアー誘致
- (36) 写真を通じた国際交流の推進
 - ・高校生国際交流写真フェスティバルの開催

見」「ふるさとへの愛着心の醸成」「ふるさとに生きる意欲の喚起」等を目指します。

2. 学力向上対策の推進

東川町学力向上推進協議会」を中心に、授業についていけない子を一人もつけないという信念のもと、子どもたちに基礎学力が確実に定着するように学校、家庭、地域の連携を強化します。

特に幼児教育から小学校教育へ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す『幼・小・中連携教育』を推進します。

3. 国際教育の推進

国際社会で活躍できる人材

を育成するために、英検の奨励や英語キャンプの拡充、小学校教諭と中学校英語教員の相互交流の実施、さらには英語教育特区導入の検討などを行っていきます。

基本姿勢と主要な施策について申し上げます。

以下新教育委員会制度への移行、就学前教育、学校教育、学社連携、社会教育の推進、スポーツ振興の推進の順に、

1. 新教育委員会制度への移行
本町の場合、教育委員長と教育長が一本化される新教育長の誕生は、平成28年10月1日でありますが、首長が招集する「総合教育会議」の開催や同じく首長が策定する「教育に関する『大綱』」の策定は、本年4月以降には実施されることとなりますので、町長部局との連携を密にして適正に対応してまいります。

2. 就学前教育（乳幼児保育、幼児教育）の推進
乳幼児保育と幼児教育の充実を図るとともに、学校教育へのより滑らかな接続を目指すため、幼児センターと小学校との交流事業や社会体験活動を通したプレスクール事業を積極的に展開し、きめ細かな保育、教育活動の推進と円滑な就学に努めます。

3. 学校教育の推進
(1) 信頼される学校づくり
学校と家庭、地域の連携に

(2) 東川中学校における「地域

(3) 東川中学校の「30人学級」導入
現在の2年生は、北海道が進める少人数学級の指定から外れているため、3学級から2学級へと1学級減になることに伴って1学級38人程度の大人数のクラスになってしま

(4) 東川中学校における「地域

(5) 読書活動の推進



東川小学校の正門に安田侃氏制作の青銅モノUMENT「帰門」が完成昨年9月10日、今年新一年生となった幼児センター園児と一緒に



町民体育祭(昨年7月6日、町民グラウンド)

(6) 食育の推進

東川小学校の体験農園（水田や畑）や果樹園等で子どもたちが自ら収穫したお米や野菜などを町内小、中学校の食材として活用するとともに、調理や体験販売も実施します。

また食材の購入と弁当づくり、さらに後片づけまでを各家庭で子どもたち自身が行う「弁当の日」をすべての小学校で実施します。

(7) 学校環境の整備

昨年整備した東川小学校と同様に、第一、第二、第三小学校に児童用木製学習机と学習椅子を製作、配置することによって教育環境の整備を推進します。

4. 学社連携の推進

東川町学社連携推進協議会が中心となり、東川小学校に併設されている地域交流センターを核施設として、その周辺に造成された野球場、サッカー場、体験農園（水田、畑）、果樹園、プレーパークなどの施設を活用してさまざまな運動や体験活動を組み

5. 社会教育の推進

(1) 生涯学習
「生涯学習本部」と「学社連携推進本部」との連携のもと、ふれあいサポータークラブやNPO法人ねおす、地域ボランティアなどの支援をいただき、「しらかば学級」や「いきいきわくわく塾」の運営を実施します。

また教育の根幹である「人づくり」は、「地域づくり」「国づくり」の精神を大切に、生涯学習事業を積極的に推進します。

(2) 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の全町的な取組
生活リズム改善の「子育て講演会」の開催や小学生の「夏休み写真絵日記」、中学生の「標語の募集」などを実施し、規則正しい生活習慣を身につける「早寝・早起き・朝ごはん」運動を全町的な取組として展開します。

(3) 図書館整備
平成25年度に「図書館建設検討委員会」を設置し、検討会やワークショップ、先進事例図書館の視察などを経て、本年3月に図書館建設に関する答申書を策定し、町長に提

よる開かれた信頼される学校づくりを目指します。このため学校を応援していただく町民ボランティアを公募し、地域ぐるみで学校運営を支援していく「学校支援地域本部事業」との連携を図ります。またコミュニティースクール導入に向けての検討を行います。

(2) きめ細かな授業の推進
学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員等を配置し、少人数指導や習熟度別指導などの「きめ細かな授業」を実施するなど、学習内容の確実な定着と自ら学び考える力を育成します。

(3) 東川中学校の「30人学級」導入
現在の2年生は、北海道が進める少人数学級の指定から外れているため、3学級から2学級へと1学級減になることに伴って1学級38人程度の大人数のクラスになってしま

(4) 東川中学校における「地域

(5) 読書活動の推進



第三小で図書祭り(昨年9月11日)

未来塾」の実施
「授業に付いていけない子」を絶対につくらないという信念の下、学習が遅れがちな生徒を対象に、大学生、教員OBなど、地域ボランティアの協力を得て学習支援をする「地域未来塾」を開設します。

出したところであります
今後は町長部局がすすめる「基本設計」や「実施設計」の策定に向けて、全面的な支援、協力をしていきます。

6. スポーツ振興の推進

町民のだれもが生涯を通じて、いつでも、気軽にスポーツに親しみ、楽しめる「生涯スポーツ社会」の実現ができるような環境づくりを積極的に



東川スキー少年団の放課後練習(2月16日、羽衣公園)

に進めていきます。
本町の子どもの体力の状況は、小学生、中学生ともに全国平均に比べると劣っていることから、幼児期からの遊びを通して体力づくりが重要であり、小学生や中学生の

体力づくりや運動習慣の定着に繋げていくよう体制づくりを進めていきます。

7. むすび

以上、平成27年度の教育行政執行に関する主要な方針と施策について申し上げます。東川町教育委員会としましては、町の子どもは町全体で育むという考えで、学校、家庭、地域はもとより、さまざまな関係機関、団体とこれまでに以上に連携を図りながら、子どもたち一人ひとりが、たくましく、健やかに成長することができるよう効果的な施策を進め、本町教育の振興に取り組みしていきます。

町民の皆様並びに町議会議員の皆さまのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。行政執行方針といたします。

平成27年4月9日

東川町教育委員会

教育行政執行の具体的な施策

27年度は次の主要施策を展開してまいります。(ゴジック体は新規事業)

第1 就学前教育（幼児教育・乳幼児保育）の推進

(1) 幼児センター機能の充実と環境の整備

- ①保育内容の充実と多様な保育サービスの提供
- ②5つの「東川っ子」実践の推進
- ③異年齢交流活動の推進
- ④幼小連携活動の充実及び地域の人材を活用した体験活動の推進（プレスクール）
- ⑤保護者や地域住民等の学習、交流機会の拡充
- ⑥安全で安心、快適な教育保育環境の充実
- ⑦特別支援教育推進体制の充実
- ⑧幼児期に合った異文化交流や英語、国際理解教育の推進
- ⑨外遊びの充実と体力づくりの推進（SEA等の指導による運動教室）
- ⑩幼児センターの改修
 - ・食器洗浄機の更新、ゲームクライミング（遊具）の設置
- ⑪健康管理や、養護・救護体制の整備充実と幼児期からの食育の推進
 - ・看護師や栄養士等の専門的職員の配置
- ⑫地域住民や保育ボランティア等の参画による世代間交流の推進
- ⑬子育て支援ネットワークづくりなど地域子育て支援事業の充実

(2) 幼児センター運営の効率化と協働体制による計画的な園運営の推進

- ①保育技術の向上を図る研究、研修の推進
 - ・子育て支援人材育成事業
- ②保護者との信頼関係を基盤にした親育ち、子育て支援の推進
- ③幼児センターの園務分掌の定着化と全職員参加の園経営の推進
- ④家庭や地域、関係機関との連携強化と地域に開かれた幼児センターづくりの推進

第2 学校教育の推進

(1) 学校教育

- ①教育目標の具現化のための教職員の共通理解と協働体制の確立
- ②学力向上対策の推進と確かな学力育成支援交付金の活用
- ③信頼と友愛に基づいた開かれた学校づくりの推進
- ④中学校30人学級の導入
- ⑤地域未来塾の開設
- ⑥日常的な読書活動の推進と学校図書館司書の継続配置
- ⑦学習支援員、理科観察実験アシスタントの充実
- ⑧グループウェアソフトの導入による教育関係機

関の連携

- ⑨町独自実施の学力テストの継続
- ⑩国際理解教育と英語教育の推進
- ⑪小、中学校における少人数指導及びチームティーチング
- ⑫JFAこころのプロジェクト「夢教室」の開催
- ⑬小西健二奨学金による支援
- ⑭小学校におけるフッ化物洗口の実施
- ⑮小学校漢字検定と中学校漢字、英語検定への助成
- ⑯教職員研修の充実（先進地視察等）
- ⑰フィンランド教育視察の実施

(2) 児童・生徒指導

- ①いじめや不登校の児童生徒のいない環境づくりの推進
- ②生徒の健全育成を図る家庭、地域との連携強化
- ③基本的な生活習慣の確立
- ④心の教室相談員の継続配置
- ⑤旭川市適応指導教室「ゆっくらす」との連携
- ⑥民生児童委員との連携強化

(3) 道徳教育

- ①全教職員の共通理解に基づく指導計画の改善
- ②「心のノート」の効果的活用方法の工夫・改善
- ③自然や資源、物を大切に作る心の育成

(4) 特別支援教育

- ①東川町特別支援教育連携協議会との連携
- ②町内の幼、小、中、高、養護学校との連携
- ③教育相談体制の確立
- ④特別支援教育支援員等の配置

(5) キャリア教育

- ①子どもの勤労観、職業観の育成
- ②中学生の職業体験学習の充実

(6) 国際教育

- ①国際理解教育の推進と英語キャンプ等の充実
- ②英語教育特区の導入検討
- ③外国語指導助手（ALT）及び中学校の英語教育指導員の継続配置
- ④英和辞典等の贈呈事業（小学校卒業生）
- ⑤日本語研修生との交流

(7) 食育と学校給食

- ①心身の健全な発達に資する健康的な食生活を営む習慣の励行
- ②米飯給食の推進と地場産品の積極的な活用
- ③「弁当の日」の実施
- ④専門家による食育セミナーを小、中学校で開催

- ⑤学社連携推進協議会との連携による食育基本計画の策定

(8) 学校環境の整備

- ①第一、第二、第三小木製机、椅子の製作
- ②東川中学校木製学習椅子のプレゼント事業の推進
- ③第二小1階トイレブースの改修
- ④スクールバス事業の充実

(9) 町内の学校との連携

- ①北海道東川高等学校教育振興協議会への活動支援の充実
- ②北海道東川高等学校の構想づくり検討会議の支援
- ③北海道東川養護学校と特別支援教育の連携
- ④旭川福祉専門学校との連携強化

第3 社会教育の推進

(1) 生涯学習

- ①地域交流センターとその周辺施設の運用開始
- ②学社連携事業の本格運用と土曜教育の推進
- ③学校支援地域本部事業の拡充
- ④学校、家庭、地域の連携協力推進事業の推進
- ⑤地域おこし協力隊事業の活用
- ⑥北工学園地域生活支援センター「ふれ愛の郷」との連携
- ⑦ブックスタート及びマイブックマイトークの推進
- ⑧親と子の朗読会の開催
- ⑨読書感想文コンクールの実施
- ⑩文化交流館図書ボランティアの育成
- ⑪しらかば学級の開催

(2) 家庭教育

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」運動の全町的な取り組み
- ②プレーパーク事業の供用開始
- ③幼児、児童、生徒の生活習慣の改善
- ④関係機関団体との連携による親子ふれあい事業の推進
- ⑤家庭学習ノートの作成
- ⑥各学校が実施する家庭教育学級の支援

(3) 学童保育

- ①家庭、地域、学校との連携強化
- ②保育体制の一層の充実
- ③自然体験、野外学習の推進
- ④指導員の資質向上
- ⑤子どもたちが健やかに安全に過ごせる快適な教育保育環境の充実

- ⑥保護者との信頼関係を築きながら、子育て支援の推進

- ⑦食（おやつ）の充実
- ⑧地域おこし協力隊事業の活用
- ⑨放課後子ども教室との連携
- ⑩学習支援の充実

(4) 青少年教育

- ①英語教室の推進（めだかのクラブ）
- ②通学合宿（第一小学校）の実施
- ③放課後子ども教室の推進
- ④越中踊り子ども保存会事業の推進

(5) 成人教育

- ①マイプラン・マイスタディー講座の開催
- ②アグリトピア・カレッジ講座の開催
- ③人材バンク登録事業の推進（ふれあいサポートクラブの支援）
- ④成人式の開催

(6) ボランティア活動

- ①ボランティアに関する情報提供や相談体制の整備
- ②地域ぐるみのボランティア活動組織や活動への支援

(7) 文化の振興

- ①町指定文化財の生涯学習施設としての利用促進
- ②町民総合文化祭実行委員会への支援
- ③芸術文化鑑賞活動への支援
- ④文化財や郷土資料の保存と郷土館の活用

(8) 公民館活動

- ①地域自治振興会活動事業との連携

(9) スポーツ振興

- ①スポーツ国際交流員（SEA）の指導によるスポーツ活動の推進
- ②ちびっこスポーツクラブの開催
- ③町民体育祭の開催
- ④生涯にわたるスポーツ活動の推進
- ⑤東川町体育協会や加盟団体及びスポーツ少年団活動への支援
- ⑥はつらつスポーツ振興奨励事業の推進

国内作家賞に佐藤時啓氏、海外作家賞はアン・ノーブル氏 第31回写真の町東川賞決定

第31回写真の町東川賞の授賞者が決定しました。国内作家賞は佐藤時啓氏(さいたま市)、海外作家賞はアン・ノーブル氏(ニューヨーク・ウエリントン)、新人作家賞は春木麻衣子氏(東京都)、北海道にゆかりのある作家に送られる特別作家賞には吉村和敏氏(同)、飛弾野数右衛門賞は福島菊次郎氏(山口県柳井市)がそれぞれ選ばれました。



審査会は2月16日、桑沢デザイン研究所(東京・渋谷区)で開きました。国内作家賞30人、新人作家賞34人、特別作家賞11人、飛弾野数右衛門賞18人、海外作家賞13人の合計106人をノミネート、佐藤、ノーブル、春木、吉村、福島各氏が受賞しました。授賞式は8月8日(土)、農村環境改善センター、受賞作家作品展は同日から9月2日(水)まで、文化ギャラリーでそれぞれ開く予定です。

佐藤氏は東川賞との関わりが深く、同氏を賞の対象にする是非が話し合われましたが、批判が出る可能性を勘案してもなお、あまりある実績を考慮して敢えて残し、その後の審査で満場一致で選出されました。

「光呼吸」展(東京都写真美術館は、カメラの構造や写真の原理に切り込み、光、身体、時間、空間をテーマにした佐藤氏の集大成ともいえる圧巻の展覧会でした。

意見が割れたのは新人作家賞です。若手から中堅作家の仕事は、毎年このながら層が厚く、何度かの投票と話し

し合いを経て、春木麻衣子、佐藤信太郎、林典子、村越としやのまったく異なる作風の作家たちが残り、僅差で春木麻衣子氏(東京都)が新人作家賞を受賞しました。

ここ15年ほど二つ二つと活動を重ね、国内外のグループ展に招かれて評価が高まっているアーティストです。新作「みることの展開図」の画面を覆う黒い空洞は、日本の今を象徴しているようにも見えました。

吉村氏は、国内外で精力的に風景写真をもにしている作家で、今回は特に北海道北斗市のセメント工場をテーマにした写真集「CEMENT」が評価されての受賞。

細部から遠景まで大型カメラで写したカラー作品は、セメント工場の存在感と意味を考えさせると同時に、そこに造形の美しさを見出し讃えた力作です。

地域に貢献のある作家に贈る飛弾野数右衛門賞は、福島菊次郎氏(山口県柳井市)に決定しました。

近年、同氏の半生を紹介したドキュ

メンタリー映画「ニッポンの嘘」が公開され注目を集めています。広島の被爆者を長年撮影しただけでなく、三里塚闘争や公害、原発に至るまで、日本というひとつの「地域」の負の歴史を、一貫して弱者の立場で表現している驚くべき報道写真家です。

今年の海外作家賞の対象国はニュージーランド。オークランド・フォト・フェスティバルの協力も得て、楠本亜紀委員長がオークランドとウエリントンで調査し、13人の作家をノミネートしました。いずれもニュージーランドを代表する作家です。ノーブル氏がその中で満場一致で選ばれました。

娘の口をクローズアップした印象的なシリーズや南極をテーマにした作品で知られています。セクシュアリティ、人間と自然の関係、表象の問題など、多くの現代人が抱える問題を、時にユーモラスに、鮮やかに描き出してきたアーティストです。

今年で31回目を数える写真の町東川賞。「写真文化首都」にふさわしい素晴らしい作家たちを選出したと審査会

は自負しています。しかしこれは一朝一夕に実現したことでも、審査会だけの力でもなく、1985(昭和60)年の「写真の町宣言」から31年、一歩一歩積み重ねた町の人たちの努力とそうした趣旨に共感した世界中の多くの人たちの共感の上に成り立っています。

「写真文化首都」宣言には以下のよう

に書かれています。

「この小さな町で世界中の写真と出逢い(であい)、世界中の人々と触れ合い、世界中の笑顔が溢れるように」、そしてそのために東川町は「写真文化と世界の人々を繋ぐ役割を担う」という重責を自らに課しています。受賞した素晴らしいアーティストを加え、東川町の人々とともに、31年目からまた新たな一歩を踏み出していきたいと考えています。

写真の町東川賞審査会委員、笠原美智子

東川町写真の町実行委員会はこのほど、「写真の町」東川賞の第1回から第30回まで、延べ125人の受賞作家

作品2千478点を掲載している「写真の町東川賞コレクションカタログ」(6分冊カラー、非売品)を写真の町30年記念事業として製作しました。歴代受賞作家の各氏から寄贈いただいた作品コレクションの目録を収録しています。(財)自治総合センター(東京)のコミュニティ助成事業として作成しました。同事業は全国自治宝くじの普及広報事業費として受け入れられる受託事業収入を財源としています。町文化ギャラリー、町文化交流館、町内各小、中学校図書館などに収蔵します。

〔海外作家賞〕 アン・ノーブル氏 ニュージーランド・ウエリントン在住



受賞理由 写真集「The Last Road」(Clouds、2014年)ほか一連の作家活動に対して

1954(昭和29)年、ニュージーランド北島西海岸にあるワンガヌイ生まれ。ウエリントン・ビクトリア大学で社会学、人類学を学ぶ。その後写真家としての活動を始め、オークランド大学エラム美術学校大学院在学中から

実験的な作風、ワンガヌイ川を撮影した詩的なモノクロ写真シリーズ(1980年代初頭)で脚光を浴びる。ニュージーランドを代表する写真家として国内外で活躍。ウエリントン・マッセー大学の特別荣誉教授。アーティストとしてだけでなく、キュレーター、教育者としても幅広い活動を精力的に行っている。

1998(平成10)―2006(同

18)年にかけて、娘とのコラボレーションから生まれた「Ruby's Room」は、口を使って食べる、遊ぶという幼年期の行為を、極めて独自の観点と色彩によって描き出した作品として国際的にも評価が高い。

2001(同13)年から数度の助成

を得て南極に滞在し、南極の想像と現実のギャップをテーマにしたシリーズ「Ice Blink(氷映)」(2011年)、「The Last Road(最後の道)」(2014年)等を展開。最近では、複雑な自然のシステムに対する世界的な脅威について、蜂と人間の共生をテーマにしながら、科学者や養蜂家らと共同した作品を制作している。

▼作家の言葉

さまざまな主題の作品を通して、私は場所や身の回りの物が持つ個人的な、また文化的な物語の記憶と想像力の持つ意味に興味を持ってきました。プロジェクトはたいいて長期にわたり、書籍、展覧会、静止画や動画を組み込んだインスタレーションに帰着します。

南極シリーズ「Ice Blink(2011年)は、写真がいかに場所の経験に対する私たちの想像と期待を作り上げているかを表す南極の観光イメージと物語に異議を唱えます。Whiteout(ホワイトアウト)」(出版予定)は、南極の光と場所の画像シリーズ。南極に関する人間の知覚と認識の脆弱(ぜいじゃく)さをあらわにするイメージの探究の結果です。

SONG STING SWARM(針の

群れの歌)シリーズ この新作では、複雑な自然のシステムと私たちとの関係を心に描き、表す新しい方法を探っています。私は蜜蜂を飼い、蜂と共に働いています。自然界から離れるのではなく、自然界との関わりの中にある脆さの美学を通して、観る側を魅了する写真に関心があります。

人間が大陸に与えた影響の、より荒涼たる物語を描き、「未開地(Wilderness)」や南極という言葉で我々が連想する従来の視覚イメージと物語に異議を唱えます。Whiteout(ホワイトアウト)」(出版予定)は、南極の光と場所の画像シリーズ。南極に関する人間の知覚と認識の脆弱(ぜいじゃく)さをあらわにするイメージの探究の結果です。

The Last Road(2014年)は、

人間が大陸に与えた影響の、より荒涼たる物語を描き、「未開地(Wilderness)」や南極という言葉で我々が連想する従来の視覚イメージと物語に異議を唱えます。Whiteout(ホワイトアウト)」(出版予定)は、南極の光と場所の画像シリーズ。南極に関する人間の知覚と認識の脆弱(ぜいじゃく)さをあらわにするイメージの探究の結果です。

SONG STING SWARM(針の群れの歌)シリーズ この新作では、複雑な自然のシステムと私たちとの関係を心に描き、表す新しい方法を探っています。私は蜜蜂を飼い、蜂と共に働いています。自然界から離れるのではなく、自然界との関わりの中にある脆さの美学を通して、観る側を魅了する写真に関心があります。

受賞理由 写真展「光呼吸」(東京都写真美術館、2014年)及び一連の作家活動に対して

1957(昭和32)年、山形県酒田生まれ。1984(同59)年、東京



藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。1990(平成2)年、第6回写真の町東川賞新人作家賞受賞。1993(同5)年、タイムラジャー・スコープ賞グランプリ受賞。1994(同6)年、文化庁在外研修員としてイギリスに滞在。

国内ばかりでなく海外での評価も高く、第9回バングラデシュ・アジア・アート・ビエンナーレ(99年)、シカゴ美術館個展(05年)など多数の展覧会に参加している。

昨年東京都写真美術館で開催した個展「佐藤時啓 光呼吸 そこにいる、そこにはない」で芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。現在、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授。

代表作の一つ「光呼吸」シリーズは、自身がランドスケープの中に入り込み、ペンライトや手鏡に反射させた太陽光の軌跡を、長時間露光によって定着したもの。

自作した複数のピンホール・カメラを用いて、360度のパノラマ写真を撮影する「Cleaning Lights」シリーズや、人が中に入る移動式カメ

ラオプスキュラを使った「Wandering Camera」シリーズなどは、カメラの始原的光学性の可能性を、現代に問い直す実験的な試みである。写真装置に焦点をあてることを通じて、光、時間、空間、身体をテーマに、見えるものと見えないもの、固有性と普遍性を問うかける作品を発表している。

▼作家の言葉

長時間露光や針孔写真、そしてカメラオプスキュラをもとに、写真が写ることと見えることのズレを媒介にして、生命の在りさま、その存在を表現したいと考えています。不在というものは、むしろ在ることを希求しイメージさせるものではないでしょうか。初期の身体性にこだわった光のシリーズから、最近では新たな写真術によるイメージの生成を試みているのですが、写真美術館の「そこにいる、そこにいない」展を評価いただき大変に光栄です。

今回受賞のお知らせを受け、内心、昨年まで審査会に属していた立場として、心穏やかではなく、その是非について逡巡しました。しかしながら、最終的には90年の新人作家賞受賞以来25年ぶりに新作を東川町に展示したいという欲望が勝りました。写真の町東川賞審査会の皆さま、東川町の皆さま、そして写真美術館の皆さま、また家族をはじめお世話になった皆さま、今回の受賞、衷心より感謝申し上げます。

のわずかな時間に訪れる空一面が青く染まる瞬間をまとめた「BLUE MOMENT」(小学館、2007年)は、その魅力的で幻想的な写真で多くの人を魅了した。

近年発表した「Sense of Japan」(ノストロ・ボスコ、2009年)、「Shinshu」(信濃毎日新聞社、2011年)、「SEKISEI」(丸善出版、2013年)は、日本の風景に帰した新たな試みとして注目される。北海道北斗市にあるセメント工場を撮影した写真集「CEMENT」(ノストロ・ボスコ、2010年)は、即物的ともいえる眼差しによって、日本を代表する巨大産業の現実とその細部に宿る美を浮き彫りにした。

▼作家の言葉

まだ雪が残る3月、講演の仕事で北海道北斗市を訪れた私は、巨大なセメント工場と出合いました。日本を代表する産業が、北の大地にしっかりと根を下ろしている姿に深く心を打たれ、その時はじめて、日本の一つの風景として「テーマにしたい」と考えたのです。

その年の夏、会社から正式な許可が下りると、数週間北斗市に滞在し、撮影を行いました。鉾山、工場、棧橋で目にするすべてのものに、新鮮な驚きと感動が満ちており、同時に究極の「美」を感じ取った私は、4×5インチの大型フィルムカメラと大型センサーを持つデジタルカメラを使い、1

【新人作家賞】
春木麻衣子(はるき・まいこ)
東京都在住



受賞理由 写真展「みる」ことについての展開図「taro nasu gallery」(2014年)に至る一連の作家活動に對して

1974(昭和49)年、茨城県生まれ。1995(平成7)ー1996(同8)年、玉川大学文学部在学中にゴールドスミス・カレッジ交換留学。1997(同9)年、同大文学部芸術学科卒業。

主な展覧会に「六本木クロッシング2007:未来への脈動」(森美術館、2007年)、「日本の新進作家展VOL.10 写真の飛躍」(東京都写真美術館、2011年)、「あざみ野フォト・アニマル 写真の境界」(横浜市民ギャラリーあざみ野、2014年)、「みる」ことについての展開図「TARO NASU」(2014年)など。森美術館、高松市美術館、太宰府天満宮等に作品が収蔵されている。

極端にアンダーにした露出から生じた画面の大部分を覆う漆黒と、そこから溢れるまばゆい光が印象的な初の

一枚一枚でいねいに作品を生み出してきました。

セメントは、普段、われわれの暮らしに欠かせないものです。しかし多くの人々が、それがどこから来て、どのように生み出されてきたのか、意識することはありません。この一連の流れを間近で見、知識として吸収しただけでも、私はこのプロジェクトを成し遂げてよかったです。

【飛弾野数右衛門賞】
福島菊次郎(ふくしま・きくじろう)
山口県 柳井市在住



受賞理由 郷土の瀬戸内を出発点とし、広島の問題を皮切りに、戦後日本の問題を一貫して撮り続けた活動に對して

1921(大正10)年、山口県下松市に網元の四男として生まれる。1945(昭和20)年、二等兵として敗戦を迎え、翌年より郷里で時計店を営む一方、広島市の被爆者、瀬戸内離島での撮影を始める。

広島市の被爆者一家の苦闘と困窮生活を10年にわたって撮影した作品「ピカドン ある原爆被災者の記録」で、1

作品集【〇】(大和ラヂエーター製作所、2005年)は、その斬新かつ洗練された表現によって注目を浴びる。

『Possibility in portraiture』(2023現代絵画、2011年)では、建造物だけでなく、移動する人物も重要なパーツを占めることによって、境界の要素に加え時間の問題も問うける作品になっている。剥製を被写体とした新作「みる」ことについての展開図シリーズは、意図的にひとつの被写体を様々な角度から撮影し、対象を分解し複数の視線を同一平面上で再構成したものの。「みる」という行為について、切り詰められた表現のなから、時間と空間の両側面に対する深い考察をうながしている。

▼作家の言葉

世の中は白と黒で割り切れないグレーな世界なのだということも、承知づくの前提です。

あたりまえだけれど、想像は作家の専売特許じゃない。観るひとが想像するからこそ、写真とか作品が、この世界で生きてくるのだと信じています。受賞を通じて出会い関わった皆さんに、こころから感謝申し上げます。

960(同35)年、日本写真批評家協会賞特別賞を受賞。1961(同36)年上京し、学生運動、自衛隊と兵器産業、三里塚闘争、公害問題、若者の風俗など、時代を象徴する多岐にわたる問題を写真に収め、雑誌等で精力的に発表した。

1982(同57)年、国家権力に対する反発から、62歳で瀬戸内海の無人島での自給自足生活をはじめ。病気のため島での生活を断念するなか、『戦争がはじまる』(社会評論社、1987年)と『瀬戸内離島物語』(同、1989年)を刊行。1989(昭和64)年の昭和天皇逝去を受け、日本の戦争責任と戦後の在り方を問う自作写真パネルによる移動写真展を開始し、現在でも各地で展示が行われている。

2003(平成15)年から文章による『写らなかつた戦後』シリーズの執筆を続ける。2012(同24)年には映画「ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳」が公開される。『証言と遺言』(デイズジャパン、2013年)などの出版も相次ぐなど、戦後史の証言者として、近年新たな注目を浴びている。

▼作家の言葉

写真の創生期だったダゲレオ時代を除けば、「文化」としての 写真が民衆のものとなったのはせいぜい戦後の70年間で、その存在を町並み全体に表現した飛び切りユニークな存在が、雪に埋もれた北海道の真ん中にあるこ

【特別作家賞】
吉村和敏(よしむら・かずとし)
東京都在住



受賞理由 写真集「CEMENT」(ノストロ・ボスコ、2010年)に對して

1967(昭和42)年、長野県松本市生まれ。長野県立田川高校卒業後、東京の印刷会社に勤め、退社後、1年間のカナダ暮らしをきっかけに、写真家としてデビューする。以後、東京を拠点に世界各国、国内各地を巡る旅を続けながら、意欲的な撮影活動を行っている。

自ら決めたテーマを長い年月を費やしながら丹念に取材し、作品集として発表する一方、近年は文章にも力を入れ、雑誌の連載やエッセイ集の出版など、表現の幅を広げている。2003(平成15)年、カナダメディア賞大賞受賞、2007(同19)年、写真協会賞新人賞受賞。

カナダ東海岸にあるプリンス・エドワード島で撮影した写真集を皮切りに、これまでに30冊を超える作品集を出版した。20年間にわたる世界各地の旅のなかでとらえた、夜明け前と夕焼け後

とを知って驚いています。94歳の老齢で歩行も困難なため、授賞式には東京の娘に行ってもらうことにしました。父子家庭だった東京生活の中で、彼女は小学校時代から僕が暗室で焼いた写真を乾燥したり、スポット(修正)まで手伝ってくれる孝行娘だったからです。

さて、僕の余命もあと一年くらいです。「無駄なことをするもんだ」と自嘲しながらあれこれ身の整理をしています。人生の「整理」などできるはずもないことを思い知らされるばかりです。人の死は後に残された者の胸に刻印されるだけですが、福島菊次郎が敗戦直後から心血を注いで撮影した「日本の戦後」の膨大な記録を、これからの若者たちが国を見つめる機会に役立ててくれるなら、これほどうれしいことはありません。

写真の町東川賞審査会委員、笠原美智子氏の講評から

第31回写真の町東川賞審査会委員は次のとおり。(敬称略五十音順)

- ▼浅葉克己(アートディレクター)▼笠原美智子(写真評論家)▼楠本亜紀(写真評論家、キュレーター)▼上野修(写真評論家)
- ▼野町和嘉(写真家)▼平野啓郎(作家)▼光田由里(美術評論家)▼山崎博(写真家)

新人作家賞 / 春木麻衣子(はるぎ・まいこ)氏



みることについての展開図 02
A certain composition of eyes 02
2014年



みることについての展開図 04
A certain composition of eyes 04
2014年



みることについての展開図 05
A certain composition of eyes 05
2014年



焼成炉
Rotary kiln
2010年

特別作家賞 / 吉村和敏(よしむら・かずとし)氏



セメント粉砕機駆動部
Drive of cement grinding mill
2010年



夜のプレヒーター
Overall view of preheater at night
2010年



飛弾野数右衛門賞
福島菊次郎(ふくしま・きくじろう)氏

中村さんは突然発作に襲われ、頭が割れる、体がちぎれると叫びながら部屋中をはい回り、体を掻きむしって血だらけになり、激しい痙攣で全身が硬直して悶絶した。その姿にカメラを向けシャッターを切り続ける壮絶な撮影が続いた。
広島 1950年代



焼け跡に生活の煙が昇り始めたのは大田川の河川敷からだった。被爆者のバラックがたちまち密集して原爆スラムと呼ばれ、「広島恥部」と差別された。
広島 1950年代



島の家にはほとんど「名誉の家」の門札が掛っていた。連合艦隊敗北の墓標だった。一人息子を戦死させた老婦人は、「靖国神社にお参りして息子に会ったらもういつ死んでもいい」と語った。
山口県沖家室島

海外作家賞
アン・ノーブル(Anne NOBLE)氏



Ruby's Room #10
From the series, Ruby's Room 1998-2006



Dead Bee Portrait #3 2014
From the series, No Vertical Song - The Dead Bee Portraits



Chapel of the Snows, McMurdo Station,
Ross Island, Antarctica 2008
From the series, The Last Road



PISS POLE #1 ANTARCTICA 2008

国内作家賞 / 佐藤時啓(さとう・ときひろ)氏



Broccoli 1995



Nikko #2 2001



#389 Kamaiso 1999



Shirakami #7 2008

中学校は3年級で

新学期、新しいお友だちをいっぱい笑顔

4月、町内の小、中学校で新入学のスタートを迎えました。幼児センターは昨年に比べて13人多い56人の新しいお友だちが入園しました。町内の小学校は4校合わせて昨年より5人多い68人、中学校は昨年に比べて2人多い78人が入学しました。



お友だちがいっぱい〜うれしい入園式(幼児センター)

51人の園児が元気な笑顔で勢ぞろい。新登園のうれしい朝、駆け足で登園してきた園児は、初めての教室、保育室で新しいお友だちとごあいさつ。伊藤園長は「来週からは早起きをして、朝ご飯をしつかり食べて通ってきてください」と元気なみんなを歓迎しました。中井悠太君(5つ)、中井海美ちゃん(5つ)2人は「たくさんのおともだちやせんせいがいいます。たのしいおあそびがいっぱいあります」と新しいお友だちを迎えました。

幼児センター(伊藤和代園長)では4月11日、第13回入園式を行いました。0歳から5歳まで昨年より21人多い2

東川小学校(大久保善邦校長)、は



ネクタイ姿とワンピースで仲良くおしゃれに決めて(東川小で)

4月6日入学式を行いました。新校舎に迎えた最初の新入生は55人。

ネクタイ姿でおしゃれな男子、女子はかわいいジャケットやワンピースの晴れ着姿で今日から一年生入学式は男子と女子が一緒に手をつないで仲良く入場。2年生の中竹優華さんが「給食はおいしいです。勉強は楽しいです」と歓迎しました。



期待と希望と緊張の入学式(東川中で)

国内初の市町村立日本語学校

東川日本語学校、10月開校へ

日本語を学ぶ東アジア地域などからの語学留学生を受け入れる町立東川日本語学校(仮称、三宅良昌校長が今年10月、開校することになりました。市町村立の日本語学校は国内初めてです。

6年前に町が開設した短期の日本語研修制度を発展させ、新たに各種学校として語学学校を開校します。これまでの短期研修制度(1カ月、2カ月、3カ月の各コース)に加えて、1年(定員20人)と6カ月(同40人)2コースを設置。外国人の多様な日本語学習ニーズに応えることができるようになります。

設置場所は、昨年10月移転した旧東川小学校校舎。入学は10月、4月(6

カ月コース)の年2回。すでに10月開校に向けて第1期生の募集を開始しました。台湾では2年前に設置した台湾連絡事務所、インターネットで募集する予定です。

開校後のカリキュラムには日本文化体験を取り入れ、日本文化理解、多文化相互理解を学んでもらう予定。短期研修コースで実施している体験プログラムの写真、陶芸、茶道、日本料理、日本舞踊、琴、スキーなどの体験研修



日本語学習者留学生が集ってステージ出演交流

4月21日、町は農村環境改善センターで「タイ、台湾、中国、ブータン日本語研修生交流文化まつり」を開きました。

町内で日本語を学ぶ中国、台湾、韓国、タイ、ブータン、ベトナム、インドネシア7カ国・地域の語学留学生、

研修生約200人が会場に集まり、日本とタイの歌や踊り、演奏を楽しみました。

交流文化まつりは3回目の開催。日本文化の一端の披露として大正琴演奏、日本舞踊、女声コーラスの町内グループが出演。海外からはタイの留学生、

研修生が出演して、14歳の中学生が踊るタイダンス、古典舞踊、南部舞踊、タイ式ボクシングの形披露を見せてくれました。

留学生、研修生と町民との文化交流の集いは、各国文化の披露交流の場として今後さらに広めることにしています。



を導入予定です。

町の短期日本語研修制度は2009(平成21)年に開設しました。韓国の高校生46人が夏休み3週間の短期研修に来町したのが始まり。その後研修生は、台湾、中国、ラトビア、カナダ、ノルウェー、タイ、ベトナム、インドネシア、シンガポール、ヨルダンのウズベキスタン、ブータンの13カ国(順不同)に広がり、延べ千100人以上が受講しました(4月末現在)。各国留学生のための寄宿舎として、昨年11月町営の国際交流会館も建設完成しています。

10年目の君の椅子、鴻森ちゃんどプレゼント

4月20日、剣淵町絵本の館で君の椅子2015モデル発表会、本年度第1号の椅子贈呈式を行いました。町内第1号のプレゼントは、西町3、佐藤鴻森ちゃん(1月22日生まれ)。お父さんの慎さん(40)、お母さん麻衣子さん(36)に抱かれ、世界に一つだけの椅子を受け取りました。



佐藤さん一家は東川町に転居して4年目。夫婦の勤務が富良野市内と上川町内に分かれていたため、中間の東川に住まいを決めました。当麻町に住む慎さんの両親も来場し、初孫が初めて手にした小さな「居場所」に目を細めました。

デザイン担当は、第1号デザインを担当した建築家の中村好文氏。製作は町内のアートクラフト工房、パウ工房の大門和真さん(34)。

原木は、今年から中川町の町有林と同町内の北大演習林で育った樹齢約150年の広葉樹ミズナラを使用し木歴認証しました。パウ工房(西町9)の製作担当は6

年ぶり3度目。今回は父厳(たけし)さんと和真(かずま)さんの親子2代共同製作でしたが、今回は和真さんの担当。「10周年記念として、座面を手ノミで削っています。削り肌の一つひとつ個性がある」と作り手のこだわりを込めたそうです。

2006(平成18)年、東川町から始まった君の椅子のプレゼントは、1年間で町内52人。今年元気な産声を上げたのはすでに17人で、鴻森ちゃんに続いて16人の赤ちゃんが椅子の届くのを待っています。君の椅子贈呈は、あと3人で延べ500人になります(4月20日現在)。

タイの語学研修生が東川中でタイ文化を披露

3月23日、タイから来日した日本語研修生が東川中学校で伝統的な踊りやムエタイの模範形の演技を披露しました。

2カ月間の短期研修で訪れた10歳から40代までの70人。日本の中学校見学

東アジアと交流深める新たな取り組みへ

4月22日、東川町東アジア地域交流促進協議会(会長・松岡市郎町長)の27年度総会を役場で開き、国際交流の促進に向けて、高校生国際写真フェスティバルの開催、町立日本語学校(仮称)の設立など、新たな交流への取り組みなどを話し合いました。(東川日本語学校の関連記事は19ページ参照)



町、町教委、国際交流事業に関係する町内10事業所、団体、施設が出席しました。席上、同協議会の新年度事業計画を承認。町の新事業として計画している高校生国際写真フェスティバル、町立日本語学校の設立の事業を

に併せて、「タイの文化を知ってもらいたい」と伝統的な民族衣装やムエタイの儀式用衣装などを持参しました。指の動きが独特なタイの南部舞踊や古典舞踊、民族楽器の演奏に合わせて踊るタイダンスなど、歴史ある多様な



文化の一面に触れ、生徒たちは興味深げ。

写真集「未来に伝えたい東川」完成、展覧会も開幕

昨年の写真文化首都宣言を記念して、町では写真の町30周年記念写真集「未来に伝えたい東川」(変形A4版、非売品146ページカラー)を編集、発行しました。併せて3月28日から4月16日まで、文化ギャラリーで同名写真展を開きました。写真集は5月、町内全戸に無料配布します。



文化ギャラリーで開いた写真展

作品にしました。奥田實氏は赤色と緑色で四季の森に視点を合わせました。黄色と茶色をテーマに里山の自然、小鳥、小動物で作品構成したのは竹田津美氏。深山治氏は青色と紫色をテーマに、雪景色の中に沈む陰影をモチーフにしました。渡辺信夫氏は黒と白をテーマに、モノクロフィルムと銀塩印画紙、ピンホール写真というライフワークに沿った作品を制作しました。

「未来に伝えたい東川」として昨年町民から募集した336人の写真作品を収録しました。町に暮らす人々の四季の生活、表情、まち並み、風景など、普段着の暮らし、笑顔をいっぱい収録しています。

町内在住5人のプロ写真家、飯塚達央、奥田實、竹田津美、深山治、渡辺信夫の各氏が町内の風景、建築物、人々、植物などを撮影した作品もフロントコーナーに収録しました。テーマカラーをそれぞれ2色選び、カラーに沿って作品づくりしています。オレンジ色とピンク色の2色は、最初に登場する飯塚達央氏。夕景などを

無事故の願い、春の交通安全祈願祭

4月10日、東川町交通安全協会(米田保会長)が東川神社で春の交通安全祈願祭を開き、一年間の町内交通安全を祈願しました。

町内各行政区、事業所、団体の役員ら約100人が集まりました。松岡市郎町長は「交通事故は起こした人も被害に遭った人も大変悲惨なことになる。事故が起きないように家庭から、地域から、職場から、学校から交通ルール

豊作願って120年目の米の苗作り

4月16日、(株)東川農業振興公社で今年の米作り水稻種もものは種(種まき)作業が行われました。町内10軒分と北海道神宮への奉納米を作っている神饌田(しんせんでん)に植える稲約200kgの種もみを育苗しています。「北海道米播種(はしゆ)祭」のこの日、農業関係者約30人がそろいました。「ゆめびりか」「ほしのゆめ」「ななつぼし」3品種、約5kgの種もみを育苗用の成苗ポットに種まきし、樽井功東川町農協組合長ら関係者が大型



ハウスに移設しました。1896(明治29)年に稲作が始まってから120年目の米作り。今年から8月稲刈り・出荷を目指す超早場米「ほしのゆめ」生産を始める予定。既にその種作業も終えて田植えに備えています。

町内の今年の作付け量は、昨年より12ヘクタール増の2千360ヘクタールの予定。1万3千600トン(22万6千500俵)の生産を計画しており、前年比360トン(6千俵)増を見込んでいます。

無事故の願い、春の交通安全祈願祭

をしっかりと守って事故のない一年に」と呼びかけました。旭川東署の宮川政憲地域交通監は事故防止に向けた一層の取り組みに期待を表明しました。東川町農協のJAひがしかわガソリン給油スタンド(北町3)では、この日に合わせてお客さんに



JAひがしかわ農協ガソリン給油スタンドで

ポケットティッシュを配って交通安全をアピール。ポケットティッシュは1000個を用意し、町交通指導員が「春は事故が多いので気を付けて」と呼びかけました。

飲水思源

町長 松岡市郎

富山県朝日町には開拓ルーツがあった

職員を滋賀県にある全国市町村国際文化研究所へ派遣していることがご縁で、全国の町村議員を対象に、ドキドキしながらなれない講義を行うことになった。富山県朝日町から受講に来ていた2人が東川町のまちづくりに関心を持ったように、懇親会の席上、朝日町でも私の話を聞きたいという。「本当かね」と疑心を持っていた。

数カ月後、その一人から町長に就任したとメールが入り、どうも本気で話を聞きたいようだ。小さな町の町長が他の町へ行って町づくりを語るのとは出過ぎだと考え、断り文句を考えていたところだったが、あきらめず何度も要請をいただいた。本町は富山人らの開拓によって今日の姿があるということもあって、以前から深い関心があった。

朝日町を調べてみると、「下新川郡」にある。また郷土史「ふるさと東川」を紐解くと、富山県開拓者の出身地は、圧倒的に「下新川郡」が多いのに気づいた。120年ほど前、夢を持って郷

土を離れた先祖の地の方々にお礼を申し上げたいという気持ちが強まった。今年には富山県人によって稲づくりが行われてから120回目の米作りとなる節目の年でもある。

富山県人は粘り強いのかも知れない。自分の考えを成就するまで諦めないという気質があるのであろうか。笹原靖直朝日町長も然りで、町長の粘り腰の強さに惹かれ「よし、行こう」と訪ねた。当時の開拓者の親戚筋に当たる数名の方々が話を聞いてくれ、感激した。本町の開拓者は、下新川郡の入善町朝日町、そして今は魚津市からという方が多いようである。第一印象は「人々の心が温かい」「家屋の周囲が実にきれい」、そして「現地の言葉で話していることはよく分からない」である。朝日町の自治に学ぶべきところが多い、と感じた。キトウシ山から町内を眺望する時、眼前に広がる手前側の水田は、富山県人によって開拓されたものである。ありがとう。

狗養童子の島 (一般書)

著：飯嶋 和一 刊：小学館



西村常太郎は15歳で日本海に浮かぶ隠岐「島後」へ流刑となった。大塩平八郎の挙兵に連座した父、履三郎の罪によるものだった。翌年、常太郎は島の人々から、狗養(ぐひん)が宿するという「御山」の千年杉に初穂を捧げる役を命じられる。そこは狗養に許された者しか踏み入ることができない聖域だった。やがて常太郎は医術を学び島に医師として深く根を下ろす。しかし島は徐々に外部から重い暗雲が忍び寄っていた。

マレフィセント (映画、DVD)

ウォルト・ディズニー・ジャパン



ある王国で念願のロイヤル・ベビー、オーロラ姫の誕生を祝うパーティーが開かれた。招待客たちが見守る中、3人の妖精たちが次々に幸運の魔法をオーロラ姫にかけていく。だが3人目の妖精の番になった時、「招かれざる客」の邪悪な妖精、マレフィセントが突如現れ、オーロラ姫に恐ろしい呪いをかけてしまった。なぜマレフィセントは呪いをかけたのか？誰も知らない「眠れる森の美女」が今日覚める。(97分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ

述：ムヒカ 編：くさば よしみ 絵：中川 学 刊：汐文社



2012(平成24)年、ブラジル・リオデジャネイロで、環境悪化した未来の地球について話し合う会議が開かれました。これといった名案が出ないまま会議も終わりに近づいた時、ウルグアイのムヒカ大統領が演説の壇上に立ちました。人々は最初、ネクタイを付けず質素な背広姿の大統領にそれほど関心を抱きませんでした。しかし演説が終わった時、大きな拍手が沸き起きたのです。

登山道の整備で考えること

昨年ニュージーランドを訪れ、ミルフォードトラックを歩いてきました。世界一美しい散歩道といわれる登山道は全行程54キロ、標高差1100メートル、完歩するには4日間かかります。一日に入山できる人数を80人と制限し、希少な自然環境が保たれています。

登山道はきめ細やかに整備されています。例えば段差の大きい場所には滑り止め用金網をつけた木製階段を設置し、ぬかるみのできそうな場所には水を抜くため側溝を掘っています。道迷いを防ぐため道標を設置しているのですが、その大きさは最小限で自然状況に溶け込んでいます。ある程度の間隔で水洗トイレも設置していて、登山に慣れていない利用者でも楽しんで安全に歩くことができるようになっていきます。

この状況は特別ではないようです。ニュージーランドでは登山道がトランピング（トレッキング）とアルパインクロッシング（山岳縦走）の大きく2つに分かれています。

トランピングルートは、人の手が行き届き、車椅子の利用者や子供連れのファミリーでも楽しく安全に



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

歩くことができるようになっています。一方アルパインルートは、登山道があまり整備されておらず、読図能力や歩行能力が必要な場所です。利用者はその区別を理解していて、自身で行ける場所を決めています。

登山道の最前線であるビジターセンターの職員は、利用者に必要な技術や整備新情報を提供しています。場合によっては詳しいガイドを紹介してくれます。事故を防ぎ、楽しく自然を楽しむ仕組みが出来ています。

翻って北海道はどうでしょうか？ 旭岳は、ロープウェイで登った所にある姿見園地に散策路といわれている道があります。しかしごつごつした岩の大きな段差があり、雨が降れば水たまりが多くなります。英語表記の道標もなく、利用者には不便でお粗末なものだと思います。

大雪山への入り口になっている姿見園地ですから、できることなら車椅子や高齢者でも歩けるように簡易舗装をし、側溝を整備してはと思っています。一方、山岳地域は最低限の整備にして、技術のない者は行けないような場所にしても良いのかも知れません。

ガイドオフィス風 代表 鳥羽 晃一



桜の木はラトビアにありますか？

国際交流員
クリスタ・ボグダノヴァ

春の訪れを告げる桜が日本中あちこちで満開に咲いていて、東川町の桜もそろそろ咲く時期でしょうか、楽しみですね。日本は「桜の国」として世界で知られています。北ヨーロッパの小さい国、ラトビアには桜があるのでしょうか。



ラトビアの春の花は、実は白色と紫色のクロッカス、そしてマツユキソウです。でも日本とラトビアの友好のおかげで、首都リーガ市には桜の名所もあるのです。リーガのウズヴァラス公園というところに、2012（平成24）年4月、在ラトビア日本国大使館がリーガ市の協力を得て14本の桜の木を植樹したのです。初めて咲いたのは2013（同25）年4月でした。「きれいに咲いているかな？」と思って足を運んでみました。行ってみると、ラトビアではなかなか見られない風景にびっくりしました。

まだまだ小さな木々だったのですが、白くてピンク色の花がきれいに咲いていました。その瞬間、4年前山形大学に留学した時に初めて桜を見たことを思い出して、とても感動しました。そして「ラトビアでも桜が人気だー」と思いました。人がいっぱい、散歩したりピクニックしたり写真を撮ってみんな桜を楽しんでいる様子でした。

暖かくなるとラトビア人は、ピクニックに行くことがとても好きです。日本のように花見の場で酒は飲めませんが、話をしながら食事を楽しむ人がかなり多いです（ラトビアでは公共の場所での飲酒は禁止されています）。

植樹から3年が経ち、木々はだんだん大きくなっています。どんどん育て、素晴らしい花見のスポットになることを願っています。



I love Japan Post Taylor Burnett

Another one of my favourite things about Higashikawa, and Japan in general, is the Japan Post. In Canada, I rarely used the post office, but when I did, it was always so expensive. Once, I needed to send a letter to Tokyo and it cost me almost seventy dollars! I really appreciate how cheap Japan Post is in comparison! I can send a postcard home for less than 100 yen. It has to travel all the way across the Pacific Ocean, but it costs less than a vending machine drink. It's a real miracle. Everyone in the post office in Higashikawa has been very kind to me, even when I come in with strange requests. I've wrapped packages in everything from string to newspaper. I really like surprising my friends in Canada with treats from Japan. Some of the things I've sent home include:

- Stickers ● A neck tie ● A handkerchief ● Mont Bell shirts ● Uniqlo Heat Tech
- Guitar picks ● Calorie Mate bars (we don't have them in Canada!) ● Puré Gummies (also not available in Canada)
- A Mickey Mouse pen from Tokyo Disney Sea ● (※) and a ton of postcards!

Thank you Japan Post and the Higashikawa post office for helping me send a little love home!

日本の郵便が大好き テイラー・バーネット

東川のもう一つのお気に入り、まあ日本全体でもですが、それは郵便制度。カナダでは、めったに郵便局に行きませんでした。行ったとしても、いつもとても高いのです。一度、東京に手紙を送ろうとしたら、70ドル近くかかりました。それに比べたら日本の郵便の安いこと!カナダへ出しても100円もしません。太平洋をはるばる渡るのに、自販機の飲み物より安いのです。本当に奇跡。

東川の郵便局は、へんてこなお願いをしても、とにかく親切。荷物の梱包では紐やら古新聞やらあらゆるものを使いました。カナダの友人に日本の楽しい物を送って驚かせるのが大好きです。今までにこんな物を送ってみました。

- シール ● ネクタイ ● ハンカチ ● モンベルのシャツ ● ユニクロのヒートテック
- ギターのピック ● カロリーメイト (カナダにはありません) ● ピュレグミ (これもありません) ● 東京ディズニー・シーのミッキーマウスペン ● 絵葉書いっぱい

カナダへちょっとした愛情を送る手助けしてくれる日本郵便と東川の郵便局に感謝です。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第118回

マジック・スクール・バス

esophagasu, confetti, alum, forager ant...??何の単語? 答えは「食道、紙吹雪、みょうばん、軍隊アリ」です。こんな単語は分からなくて結構、という人が多いかもしれません。でも、自分の子供に留学できるくらいの高い英語力を身につけさせたいと思うなら、魔法(マジック)のようにぴったりの絵本があります。その名も「マジック・スクール・バス」。出合ったのは、カナダの中古書店。ビビッと来たので買い占

めました。とにかく面白い。破天荒なフリズル先生が、スクールバスで蜘蛛の巣、人、浄化施設、海底とあらゆる所につれて行ってくれます。おもしろいのは先生のドレス。毎回変わるその柄を見ると、冒険のテーマが一目瞭然です。

合い言葉は「Take chances, make mistakes, get messy. (とにかくやってみよう、ミスしよう、汚れたっていい!)」。もとは小学校低学年向けの科学絵本ですが、テレビでも大人気でした。

私たちにはやや難しく感じるかもしれませんが、全部理解できなくても構わないのですよ。すべての単語を覚えないと英語は読めないと思ってしまったら、一生読めるようになりません。このシリーズはビデオDVDも出ています。You-tubeでアニメを見ることもできます。どうしても不安な人には、岩波書店から日本語版も出ています。とにかくお勧めです!